

南部クリーン第2建替

発注仕様書 日本総研と契約
作成支援業務

京都市

工事など一括化も検討

京都市は南部クリーンセンター第2工場建替について、プロポーザルで選定を進めていた発注仕様書作成支援等業務を日本総合研究所と委託契約したことを明らかにした。既存の設備・建物解体や新工場の建築・プラント製作など一括発注

を検討しており、年度下半期にも入札公告する模様だ。委託業務の正式名称は「京都市南部クリーンセンター第2工場建替整備事業に係る発注仕様書作成支援等業務」。指名三者が参加する中でプロポーザルが行われ日本総合研究所を特定。三

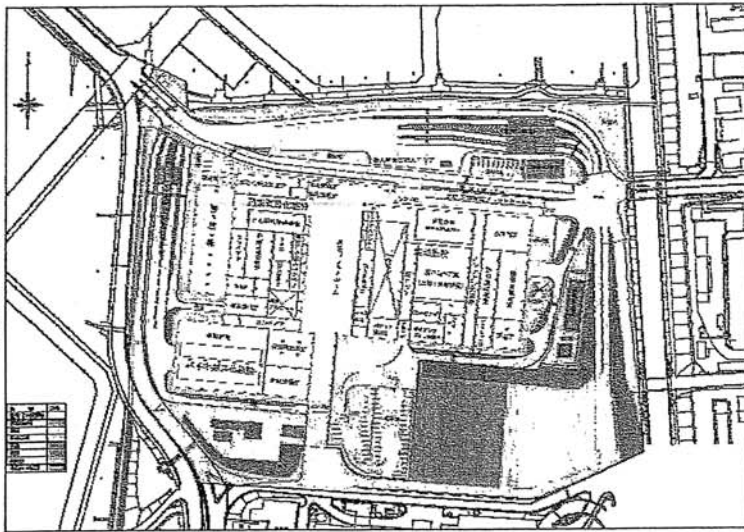
月二十八日付けで契約した。委託期間は二十一年三月末まで。建て替へは計画当初、本年度から準備工を行いプラント解体・建物解体を進め、二十二年から建築工事を計画していたが、基本計画を見直している。解体と工

総事業費は約四二〇億円を見込んでいる。二十年度当初予算には、三億五、九〇〇万円を計上しており、このほど委託した発注仕様書の策定を進め、入札準備を進めるとともに受変電施設の建替や管理事務所仮設工事を予定している。

新工場建設に当たっては、効率的な運営管理を行うため焼却施設だけでなく、「選別資源化施設」と「バイオガス化施設」を付加した複合化施設として整備を計画している。

予定する焼却施設は、一日焼却量五〇〇トン。二五〇トン/日(二四時間運転)の焼却炉を二基整備する。排ガスや排水、悪臭、騒音、振動については、法令に定める基準、またはそれ以下に目標値を設定。焼却熱の利用で最大一萬四、〇〇〇キロワットの発電を行う。

選別資源化施設は、一八〇トン/日(六時間運転)。バイオガス化施設は、厨芥類等を微生物処理し、メタンを主成分とするバイオガスを回収。六〇トン/日(三



新工場の配置図

トンを回収。六〇トン/日(三

〇トン/日、二系列)の規模を設定。バイオガスから水素ガスを生成し、燃料電池による発電(一、〇〇〇キロワット)を行い、所内利用や電力会社へ売却する。予定される施設は、焼却施設や選別資源化施設、バイオガス化施設などを配置する工場棟がSRC造5階建(高さ約四〇m)、管理棟がSRC造4階建(高さ約二〇m)、煙突は外筒RC構造内筒鋼管(高さ約八〇m)。